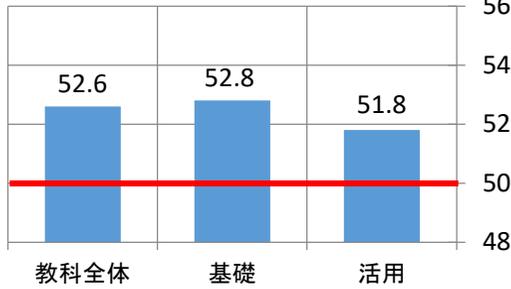
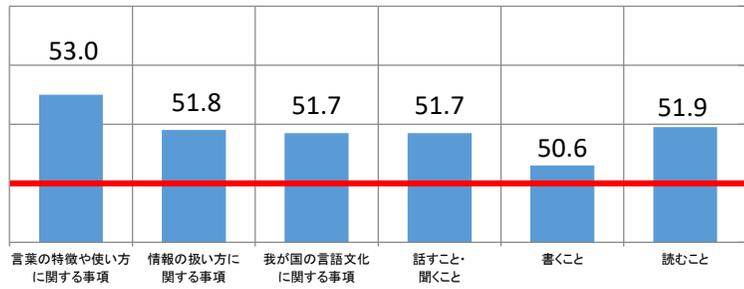


調査結果

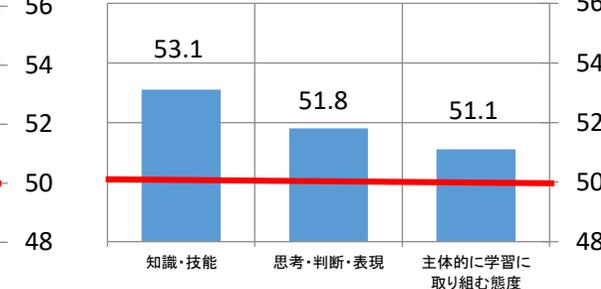
偏差値



領域別偏差値



観点別偏差値



分析Ⅰ

文章を書く 本調査問題7

読み取った内容を明確にして書くことに課題が見られる。

◆考察◆

目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする学習では、何のために、誰に対して書くのかなどを具体的に考えさせることが大切である。指導に当たっては、行事の案内や報告の文章などについて、相手や目的に応じて伝えるべき事柄を取捨選択したり再構成したりして簡潔に分かりやすく書く学習活動が考えられる。

授業アイデア例

言語活動：自分が選んだ相手に文化発表会の案内文を書く



今回の単元で、特に付けたい力は、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること（B（1）ア）です。

第一次

●単元の見直しをもち、案内文の一般的な形式を理解する。

第二次

●案内文の相手と目的を確認する。（相手：保護者、小学生、地域の方から選択）  
●教師のモデル文を参考に、ルーブリック表を作成する。…**本時**  
●相手の立場に立って情報を選び、項目ごとに整理する。  
●案内文の下書きを書く。

第三次

●案内文を互いに読み合い、ルーブリックを用いて相互評価する。  
●案内文を清書し、学習を振り返る。

モデル文（B評価）を分析し、どのような案内文が相手意識や目的意識の高い案内文かを考えて、ルーブリック表を完成させましょう。

モデル文は、地域の高齢者の方に向けて書いているから、移動しやすいルート図を入れると、さらに良くなるね。

	相手の立場に立ち、必要な情報が正しく伝わるか【相手意識】	相手に観覧したいと思わせるような内容か【目的意識】
A	会場へのルートなど来校の際に観覧者が困らないように伝えている。	相手に観覧したいと思わせるように、見どころを書いている。
B	観覧するための情報が正しく伝わる。（場所・時間など）	どのような内容があるのかを書いている。
C	観覧するために必要な情報が不足している。	相手に観覧したいと思わせる内容が不足している。

内容の情報だけでなく、スロープのルート等、来校した際に困ることがないように書くことA評価になるね。

ルーブリックを作成し活用することで、生徒が学習の見直しをもって課題に取り組むことができます。また、生徒自らが評価することで、学習の成果をより実感することができます。

分析Ⅱ

説明的な文章の内容を読み取る 本調査問題4（3）

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られる。

◆考察◆

文章の構成や展開について考える学習では、なぜそのような構成になっているのか、どのような効果につながるのかなどについて、根拠を明確にして自分の考えをもつことができるようにすることが大切である。指導に当たっては、説明文について、文章全体や部分における構成や展開について分析した後に、自分の考えを踏まえてリライトする学習活動が考えられる。

授業アイデア例

言語活動：筆者の文章の構成を分析し、「不便の価値を見つめ直す」をリライトしよう



今回の単元で、特に付けたい力は、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること（C（1）エ）です。

第一次

●単元の見直しをもち、「不便の価値を見つめ直す」を読んで、初発の感想を書く。

第二次

●思考ツール（フィッシュボーン）を用いて、要約する。  
●「不便」の事例（本論）が、筆者の主張（結論）につながっていることを確認する。  
●個人で、「不便」の事例を考え、段落別を書く。…**本時**  
●書いた事例が結論につながっているが班で話し合う。

第三次

●班内でのリライト作品を読み合い、感想を伝え合う。  
●単元の振り返りを行う。

筆者が示した「不便」の3つの事例（⑨⑩⑪）が筆者の主張を支えていることを確認した後に、結論につながるように身近な「不便」を考えましょう。

前時までの学習で、フィッシュボーンの真ん中の部分である本論が根拠となって、筆者の主張である結論につながっていることが分かったね。

フィッシュボーンが完成した後に、形式段落番号を入れると、どのような文章構成であるかが、より明確になります。

例えば、電子マネーは便利だけど、現金の方が増減が分かりやすくお金の使い方を意識できるなど、自分たちの経験の中でも、「不便」の事例となるものがあるよね！

筆者がどのようなねらいで3つの事例を取り上げたのかを考えさせるとともに、生徒が考えた「不便」の事例が、筆者の主張を支え得るものかどうかを意識させながら考えさせましょう。